

益城の文化財

文化人、官兵衛と木山氏



益城町指定文化財「太宰府天満宮連歌屋記事」

現在放映中のNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』で「軍師・黒田官兵衛」が乱世を勇ましく生き抜く「武士」の姿が描かれている一方、官兵衛は“文化人”としての一面も併せ持っていました。実はその「文化人・黒田官兵衛」と益城町がとても深い関係にあったことを知っていますか？

戦国時代、豊臣秀吉の天下統一が近づくと、官兵衛は家督を子・長政に譲り、「黒田如水」を名乗って豊後中津や筑前福岡で「連歌(※)」を嗜みながら隠居生活を送っていました。その際、連歌師として召し抱えられたのが木山城・赤井城の城主であった木山惟久です。

「九州に木山という連歌の上手あり」といわれるほど連歌で有名な人物だった惟久は、当時日本一と称されていた京都の連歌師・里村紹巴に入門し、雅号を「紹宅」と名乗りました。如水に伴って京都で活躍した紹宅は、連歌師として高い地位を築きました。紹宅の詠んだ連歌やその文化的行動は、今日においても高く評価されています。

また、紹宅の子・木山信連も父同様に連歌を嗜んでおり、雅号を「紹印」と名乗り、豊前中津城で如水と長政に仕えて厚遇されました。長政が筑前福岡城の城主になったことに伴い、太宰府に移り住んだ紹印は、如水が太宰府天満宮に再興した「連歌屋」の初代となり文化人として活躍。現在も太宰府には連歌屋という地名が残っており、連歌会が盛んに行われています。

木山惟久・信連ら木山氏や連歌に関する資料は「益城町指定文化財」として町図書館内に展示しています。

※鎌倉時代から江戸時代にかけて流行した文芸で、短歌の上の句(5・7・5)と下の句(7・7)を数人で交互に詠み続ける日本の伝統的な詩歌の形。

参考文献 『益城町史 通史編』、益城町史編纂委員会編、『飛梅第166号』・『飛梅第169号』太宰府天満宮社務所発行

益城町文化財保護委員会

おたより紹介

☑ リニューアルした「広報ましき」を楽しく拝読させて頂きました。休日当番医もわかり易くて重宝しました。
広崎 渡邊 友子

☑ この4月に転入してきました。「広報ましき」、丁寧な作りで読みごたえがありました。特に「益城の文化財」や「ふるさと地名散歩」などがためになりました。
古閑 松永ぎん子

☑ 先月、益城町に引っ越してきました。人の優しさ、環境のよさ…本当によい町です。
惣領 渡部 浩光



P.N
ももちゃん

わが家の天使



やすだ なつき
安田 夏樹 ちゃん
(辻 団 地)

3月3日で7か月になりました。お姉ちゃんと一緒にいつもおしゃべりしています。早くお話ししたいな♡

パパ 秀樹さん ママ 美加さん



やすだ しゅう
安田 翔 くん
(福 富)

3月6日で6か月になりました。みんな一緒にお散歩行こう!!

僕についておいで～!!

パパ 豊さん ママ 愛さん